

HW I P企画運営委員会 教務報告

● 1年

- HW セミナー：春の合宿（3日） + ラボローテ（1日×3）
 - 2019年度は**副プロ**（必修）があるので時期を遅らせる（夏とか）。
 - ローテーションは副プロ生は参加できない（指導教員の協力がいるので）。
- 基礎論Ⅰ・Ⅱ：特任座学（前期・後期、各金曜1コマ×15）基礎ライティング含む
 - 2019年度も同様に続ける。
- 領域基礎研究：ラボでの専門研究 + イノベーション入門
 - イノベ入門：Clic 産学講義 + 企業訪問 + イノベーションイノベーション（座学2日+企業訪問1日）
 - 2019年度も同様に続ける。（今年度分の動画と資料を企業へ配布する）
- 創出論：オムニバス講義（後期 金曜2コマ×8）
 - 2019年度は変更の可能性有り。（今年度分のレポートは講師へ配布＆お礼）

● 2年

- 融合領域研究：ラボでの専門研究 + アウトリーチ
 - アウトリーチ：未来館座学と学内+Expecity/産学 OACIS での実践（座学1日+実践2日）
 - 2019年度も同様に続ける。

● 3年以降

- **プロジェクト研究：融合研究**に属する（グラントでPIを行うとPI研究の単位も追加）
 - 3年次。来年も同様。提案書(5月末)→教員認定(10月)→書類(11月)→面接(RQE,1月)
- 実践演習：参画企業による講義
 - 3年次。来年も同様。産連担当（マハズーン先生）。
- インターン・HW 価値創造：国内3ヶ月以上、海外1.5ヶ月以上、ただし通勤期間は2/3でも良い。
 - 来年度説明会日程調整(マハズーン先生)。
 - クラウドファンディングで最初の例。→採択。初の価値創造実践履修へ。
 - 来年度、最も簡単な起業の例をもって教科書的な起業プロトコルを作成。

● 審査など

- 学生アドバイザー：8月ごろメンタリング、11月初旬評価。 →2019年度も同様
- GPI スキル診断：毎年秋に実施 →増澤先生・首藤先生担当、2019年度も同様
- Pre-QE：1年次12月 →選抜委員会担当、2019年度も同様
- R-QE：3年次1月（最終試験と同時） →2019年度も同様。（本年度は先月に全員合格）
- 最終試験：公聴会は5年次1月 →2019年度も同様（少し軽く）。**本年度、全条件の確認。**

● その他

- 学生企画： →合宿の企画がありましたなくなりました。
- HW 教員セミナー： →特になし
- 副プログラム： →別紙説明
- その他イベント： →**北米センター協力の北米研修（1年生二名）**

※ 講義の流れ

研究：領域基礎（1年）→融合領域（2年）→プロジェクト研究（3年）→PI研究（4年）

産業：入門（1前）→創出論（1後）→アウトリーチ（2年）→実践演習（3年）・インターン（3年）

※ 各カリキュラム説明やイベント詳細は HP 右上の履修生専用ページにあります。

<http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/student-only/>

ヒューマンウェアイノベーション副プログラム (大学院高度副プログラム)

● 概要

- 全学の大学院生対象
- 下記表のグレー以外を提供（情報科学研究科から）
- レッドは必須科目、ブルーは博士後期以上限定
- 8単位が修了要件

● プロセス

- 1. 履修登録（4/19 まで。その後、4/26 までは考慮する可能性もあり）
- 2. 履修（赤 2 単位＋その他 6 単位以上）
- 3. 修了認定（阪大から修了認定証）

HW領域コア科目	学年	単位	
HWイノベーション創出論	M1	2	●
HWセミナー	M1	4	
HW領域基礎研究	M1	6	●
HW融合領域研究	M2	4	
HW融合領域プロジェクト研究	D1	4	●
HW PI融合領域プロジェクト研究	D2	4	
イノベーション実践演習	D1	4	

HW熟議セミナー	MD	2
HWラボローテーション	MD	2

HWイノベーション入門	MD	2
ラボでの専門研究	M1	6

HWコミュニケーション	MD	2
ラボでの専門研究	M2	2

HWインターンシップ

インターンシップ(長期)	D	4
インターンシップ(短期)	D	2
海外インターンシップ(長期)	D	4
海外インターンシップ(短期)	D	2
HW価値創造実践	D	2

HW領域基礎科目

HW基礎論 I	M1	2
HW基礎論 II	M1	2



プログラム名	ヒューマンウェアイノベーション副プログラム		
提案（幹事） 部局	情報科学研究科		
連携部局	生命機能研究科、基礎工学研究科		
履修対象者	修士・博士		
修了要件	8単位以上		
趣旨・概要	情報技術の類まれな発展により人間や機械が情報ネットワークを介して密接につながり合うことで、人間と人間、人間と環境・機械との間で予測困難な課題が生じており、また情報システムが人間や環境にかけける負担も急速に増大しています。このように激変する情報社会では「生命システムなどが持つ仕組みを有し、人間・環境に調和した情報社会を構築する新しい技術：ヒューマンウェア」の確立が急務です。本プログラムでは、このヒューマンウェアという視点から、「情報科学、生命科学、認知・脳科学」の包括的な理解の下で、これらの融合から自ら課題を設定し、グループを組織、牽引してそれを解決することにより、新しいイノベーションへと導く人材を育成します。		
到達目標 (修了時に身に付く能力)	①ヒューマンウェアという視点をもってイノベーションの方向性の転換を考えられる能力。 ②情報科学、生命科学、認知・脳科学の分野を横断的に考え、議論できる能力。 ③課題設定とグループによる解決に挑戦できるコミュニケーション力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力。 ④専門分野や立場、国や文化などが異なる多様な人と協働できる能力。		
カリキュラムの構成	上記の教育目標を達成するために、学生がそれぞれの目的に応じて自主的に成長するための科目を提供しています。例えば、異分野の学生が集まり、時には教員も取り込み、チームにて課題を設定して挑む中で、上記能力を獲得します。講義から学ぶことよりも、人とのつながりや自身の行動や思考による成長を想定しています。また全ての学生に画一的な教育を提供するのではなく、ヒューマンウェアという概念に焦点を当てながら、できる限り個々の学生の目的や個性に合わせた教育の場を提供すると同時に、学生によるプログラムの改善と発展も歓迎します。		
履修資格・条件	受講希望者の人数やその他の状況により、選考する場合があります。 情報科学、生命科学、認知・脳科学およびその複合領域についての関心があり、異分野の論点を理解するための強い好奇心、対象を多面的に捉えるための柔軟性と無邪気さ、異分野交流に必要なコミュニケーションの意欲を持つ学生を歓迎します。		
前掲知識の目安	文系理系を問わず様々な分野の学生の受講を期待します。		
ホームページ 問い合わせ等			
プログラム独自の 説明会について			
特記事項	受講を希望する場合は、 <u>情報科学研究科ホームページをご覧ください。</u>		

【特記事項】
受講を希望する場合は、情報科学研究科ホームページから、「教育活動→高度教育活動→ヒューマンウェア副プログラム」をご覧ください。詳細や申請方法などをご確認ください。
4月19日（金） までに別紙エントリーシートを提出ください。
4月19日（金） 以降4月26日（金） までにエントリーシートの提出があったものについても考慮します。

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講学期 (4学期制)	開講部局 (課程)	備考
		必修	選択			
331033	ヒューマンウェアイノベーション 創出論M		2	秋～冬学期	情報科学研究科 (博士前期)	①
333016	ヒューマンウェアイノベーション 創出論D		2	秋～冬学期	情報科学研究科 (博士後期)	①
331034	ヒューマンウェア熟識セミナーM	2		春～冬学期	情報科学研究科 (博士前期)	①②③④ 集中
333017	ヒューマンウェア熟識セミナーD	2		春～冬学期	情報科学研究科 (博士後期)	①②③④ 集中
331035	ヒューマンウェアイノベーション 入門M		2	春～冬学期	情報科学研究科 (博士前期)	①③④ 集中
333018	ヒューマンウェアイノベーション 入門D		2	春～冬学期	情報科学研究科 (博士後期)	①③④ 集中
331036	ヒューマンウェアコミュニケーションM		2	春～冬学期	情報科学研究科 (博士前期)	③④ 集中
333019	ヒューマンウェアコミュニケーションD		2	春～冬学期	情報科学研究科 (博士後期)	③④ 集中
331031	ヒューマンウェア基礎論 IM		2	春～夏学期	情報科学研究科 (博士前期)	①②
333014	ヒューマンウェア基礎論 ID		2	春～夏学期	情報科学研究科 (博士後期)	①②
331032	ヒューマンウェア基礎論 IIM		2	秋～冬学期	情報科学研究科 (博士前期)	①②③④
333015	ヒューマンウェア基礎論 IID		2	秋～冬学期	情報科学研究科 (博士後期)	①②③④
333022	ヒューマンウェア面直創造実践D		2	春～冬学期	情報科学研究科 (博士後期)	①③④ 集中
333021	ヒューマンウェアイノベーション 実践演習D		4	春～冬学期	情報科学研究科 (博士後期)	①③④ 集中
333020	ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究D		4	春～冬学期	情報科学研究科 (博士後期)	①②③④ 研究

HW が求める融合研究の成果物の条件について

● 概要

- ・ 融合研究の成果物として、内規的（履修生 HP での添え書き程度）に、参画企業や、特許を加えたい。
 - ◇ 教務委員会でも審議中（3月6日正午まで）なので、どちらも問題なければ実行したい。

● 現在の融合研究の定義（履修の手引き）

- ・ 「融合研究の成果物とは、異なる研究分野の（研究科を跨がる）学生、教員を含む共著の国際雑誌、国際会議の論文発表、著書、作品などをいう。」

● 変更案

- ・ この手引きの文章はそのまま、履修生専用 HP のみに以下を添え書きする。
 - ◇ 「※参画企業の研究者（参画企業によって認められた関連企業の研究者を含む）は、異なる研究科の研究者と同様に扱う。また、特許なども成果物である。」

● 理由など

- ・ 例えば、参画企業 A 社にインターンに行き、A 社と学生が共著で論文を書くとか、特許を書くとか、のケースを考えています。
- ・ こうすることのメリット（必要性）は主に以下の二つを考えています。
 - ◇ 今後の参画企業との協力関係の発展を促すこと、
 - ◇ 現在の参画企業の有給インターン等の専攻面接などで不利にならないこと、
- ・ 特に後者に関しては、実際に面接で心配された学生もいるようです。HW を良く知る方だと、「専門と融合に加えてインターンもちゃんとやれるか？」と心配してしまう、ということかと思いますが、それは納得できます。インターンの選考に有利になるとばかり思っていたが、よく知る場合には不利になる可能性もあるということに気づきました。
- ・ また奨励金が無くなる来年度から、有給インターン等で参画企業と協力していくことも必要だと思いますので、上記のような HP への加筆はそこにも強いメリットがあると思います。

● 問題ないと考え理由

- ・ やはり研究科は高度な専門性をもっているため、参画企業には、その研究科の専門だけを取り扱っているような企業は無いと考えられる。
- ・ 参画企業は HW の分野融合をよく理解して協力してもらっている。
- ・ HW における「イノベーションにつながる融合研究」という観点では強まっている部分もあると考えられる。



ユーザーページ

購読一覧



トップ

速報

写真

映像

雑誌

個人

特集

意識調査

ランキング

有料

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT・科学 | ライフ | 地域

アーカイブ

「空耳ソング」の自動生成プログラムが開発中 きっかけは「さくらんぼ」を野球選手名だけで歌う替え歌

2/7(木) 9:00配信



「空耳ソング」の研究

「空耳を自動生成するプログラム」の研究・開発プロジェクトが、学術系クラウドファンディングサイト「academist（アカデミスト）」に登場しました。「タモリ倶楽部」の「空耳アワー」で聞こうよな、歌詞などを別系統の言葉で置き換える「空耳」を、自動で作ろうという試みです。

【画像】「地上の星」の空耳替え歌

研究者は大阪大学博士後期課程2年の島谷二郎さん。YouTubeで見た替え歌動画「大塚愛『さくらんぼ』を野球選手名で歌ってみた」がツボにハマり、空耳に興味を持つようになったといいます。

そこから、「さくらんぼ」の動画と同様の、「種類が限定された単語による空耳」の研究を開始。自動生成プログラムの開発を進め、途中経過として「中島みゆき『地上の星』の歌詞を国名に置き換えた替え歌」の自動生成結果を公開しています。カザフスタンツ〜バル〜（風の中のすばる）、スワジランドギ〜ニア〜（砂の中の銀河）……けっこう形になってる！

研究の目的は、どういった文章が空耳になりうるか、どんな空耳が面白いのかといった、空耳への理解を深めること。また、自分の開発したプログラムで人を笑わせたいこと。「掛詞のような音韻の類似性を利用したユーモアに、1300年前の万葉集の時代から親しんできた日本人にとって、空耳もまた受け入れやすいユーモア」と考え、日本人である自分が世界に先がけて研究することには意味があるとしています。

ねとらぼ

【関連記事】

【動画】「地上の星」の空耳替え歌

「恋のマイアヒ」15周年記念に新バージョン&PV公開 ウガンダで響き渡る“のまのま イエイ”

MIT、スパゲティを半分に折る方法を発見 3つ以上に折れる理由の判明から13年を経て 葛飾北斎の絵で見たやつだ！ 英研究チームが謎の巨大波を再現したらあの波そっくり

Yahoo!ニュースからのお知らせ



ハズレなし 最大300ポイントが当たるニュースくじ実施中

アクセスランキング（IT総合）

- 1 「Webサービスをスクショで紹介したら50万円請求された」——物議を醸した「強い女メーカー」問題の争点は
ねとらぼ 2/25(月) 19:00



- 2 シーチキン×コンビーフ＝？ 最強コラボ缶詰、発売から半年後に話題に 比率は？味付けは？販売元に聞いた
withnews 2/26(火) 7:00



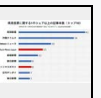
- 3 単なる“ネットの闇”ではない「ダークウェブ」の正しい意味を知っていますか
ITmedia エンタープライズ 2/26(火) 7:00



- 4 AI導入はPDCAから“DGWA”サイクルへ
ITmedia NEWS 2/26(火) 7:00



- 5 沖縄・県民投票「まとめサイト」が大手メディアを超える拡散力 知事や反対派の批判が中心
BuzzFeed Japan 2/25(月) 6:33

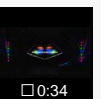


動画アクセスランキング（IT・科学）

- 1 はやぶさ2タッチダウン直後 画像を公開
ホウドウキョク 2/22(金) 15:57



- 2 サムスン「折り畳みスマホ」発表 価格21万円越え
ホウドウキョク 2/21(木) 17:04



- 3 バイオ燃料事業で強カタッグ 大量・安定生産へ
ホウドウキョク 2/22(金) 15:54



- 4 「はやぶさ2」着陸成功 携わった人々も歓喜



北米研修（北米センター共催）

北米センターおよび北米同窓会に依頼したところ、物凄く手厚くご協力いただきましたので、HW としてご協力いただいた事をお伝えします。

参加者

- ・吉村君（情報科学研究科、原研 M1）
- ・齊藤君（生命機能研究科、柳田・岩城研 D1/D5）

日程

- 2/25 18:00 稲葉様(Apple) @Apple Visitor Center
- 2/26 10:00 田邊様(Stanford 医学部)
- 11:00 - 13:30 SAIL
- 14:00 原田様(Apple)
- 16:30 "Blockchain's Impact on US and Japan"講演会参加
- 2/27 10:00 MBC BioLabs（長谷川先生にホテルピックアップ）
- 2/28 10:00 新山様(kintone)
- 12:00 Google SF Office
- 18:00 Uber
- 3/1 10:00-11:30 河村所長(Panasonic β)
- 12:00-13:30 JSPS-Stanford 大共催シンポジウム
- 3/2 長谷川先生
- 3/3 13:15 山中様(Google)
- 3/4 LA へ移動
- 3/5 9:30 江川様(Fujita, 米マツダ)ホテルピックアップ
- 11:30 岡井様(TATA, 米 Sanyo)
- 15:00 岡野様(KPMG)
- 17:30 北米同窓会 Dinner
- 3/6 帰国

※必要あって LinkedIn に組織を登録しました。



Humanware Innovation Program, Osaka University
Higher Education · 5 followers

HWIP is PhD program driven by 3 Grad Sch of Osaka-u (Info-Sci, Eng-Sci, Bio-Sci) to develop interdisciplinary leaders.

[Visit website](#)